

水を大切に使おう

節水を心がけて!

荒川がくらしの水を支えています

農業、水道、工業、水力発電などで私たちのくらしに欠かせない水。実は、荒川は「首都圏の水がめ」としてくらしの水を支えています。例えば、秋ヶ瀬取水堰では多くの水道用水を取水しており、埼玉県民約430万人、東京都民約1250万人の飲み水になります。*

川の流量は季節によって大きく変化するため、上流のダム群で水を確保する、利根川の水を武蔵水路で導水する、渇水時には荒川貯水池「彩湖」から水道用水を補給するなどして水を安定的に確保しています。水は、開発された施設によって得られる限りある「資源」なのです。普段から水を大切に使い、節水を心がけましょう

*当事務所のホームページより

荒川上流部改修
100年
関連イベント情報

応募締切が迫っています! 荒川1min動画コンテスト

荒川上流部改修100周年を記念して、荒川流域の歴史や文化、見どころなどを題材にした動画を募集しています。60秒以内の作品にまとめてください。プロ・アマは問いません。優秀作品を表彰し、11月の記念イベントに合わせて上映会を開催するほか、当事務所のホームページなどで配信します。応募締切は10月31日(水)。詳しくは当事務所のホームページで。



ヤマノススメ

荒川上流河川事務所
荒川流域の飯能市を舞台にしたTVアニメ「ヤマノススメ」とのコラボが実現しました。主人公たちが荒川の今をシリーズで紹介します。



水は大切な「資源」です

水を無駄遣いしていませんか

Illustrated by Yokota Takumi / Paint/Finished by Saito Megumi
©しろ/アーススター エンターテイメント/「ヤマノススメ サードシーズン」製作委員会

都市部の広大な水辺空間「彩湖」 実は、平地に造られた「ダム」です!

戸田市と和光市を結ぶ幸魂大橋。その眼下に広がる荒川貯水池「彩湖」は都市部にありながら、実はダムとしてくらしの水を支えています。洪水時にその一部をためる器として機能し、渇水時にはためた水を秋ヶ瀬取水堰の上流へ補給します。また、併設する浄化施設は、下水処理水をさらに浄化して放流することで、同量の河川水を水道用水として利用できるようにしています。



彩湖と浄化施設を活用して、最大で毎秒3.5m³の水道用水を生み出します

くらしの中に節水のチャンスが! 1日に283リットル使っています

日本人1人が1日に使う生活用水は、283リットル*にもなります。その約9割を炊事、洗濯、トイレ、風呂が占めており、少人数世帯ほど1人当たりの使用量が多くなる傾向にあります。シャワーではなく湯船のお湯を利用する、風呂の残り湯を洗濯に利用するなど節水のチャンスは工夫次第。常に節水を心がけましょう。



油分を拭き取って食器を洗えば、節水だけでなく、下水処理の負担軽減にも

*国土交通省「平成30年度版日本の水資源の現状」

